

JAいわて花巻 組合員表彰受賞者

組合員表彰

地域農業の振興と農業協同組合の発展に尽くし、その功績が極めて顕著であって、他の模範と認められた団体と個人を通常総代会の中で表彰しました。



農事組合法人

胡四王みらい (花巻市矢沢)

代表理事 中島 一

経営および技術の特徴

平成6年より前身の花巻市水稲種子生産組合で優良種子生産に取り組み、平成26年3月に法人を設立し自主運営による種子乾燥調製施設を建設。種苗センターとの出荷契約数を毎年達成し、JA管内のほか県内外の水稲種子の供給を担っています。転作部門では土地利用型作物の小麦、大豆、雑穀を生産しており、排水・除草対策やブロックローテーションにより反収・品質向上をはかっています。また、平成29年度からは育苗を受託し、育苗後の遊休ハウスを有効活用してミニトマトを栽培し、経営の安定化をはかっています。

功績および地域への影響

転作部門を担っていた胡四王生産組合を平成27年に統合し、農地中間管理事業を活用しながら地域の農地集積を進めた結果、集積率は62・2%となりました。また、胡四王地区に隣接する中山間地域の転作作業を受託し、担い手不足の解消と中山間地の景観維持に貢献しています。



瀬川 栄一 (北上市二子町)

経営および技術の特徴

経営は二子さといも57aと大玉トマト26aが中心で、地域の生産法人に加入。二子さといもの連作障害対策として、生産法人と連携し、米・大豆・二子さといものほ場ローテーションを実施しています。大玉トマトは、平成14年より養液土耕栽培システムを導入し、作業効率を上げながら長期安定出荷に向けた経営の努力をしています。

功績および地域への影響

良質生産を行いながら、二子さといもの多収技術や良品安定のための培養苗の育成・普及活動に積極的に取り組み、平成24年には大手量販店や行政と連携し設立した二子さといも推進研究会において「フードアルチザン(食の匠)」の認定と活動に尽力したほか、平成27年から始めた地理的表示(GI)保護制度登録への推進活動においては、生産者の取りまとめや認証登録団体の設立に向けて大きく貢献しました。



平成20年～二子さといも生産組合副組合長／平成23年～二子さといも生産組合組合長、北上地域野菜部会さといも専門部長、北上地域野菜部会副部会長を2期6年

南川 信一 (西和賀町沢内)

経営および技術の特徴

経営はリンドウ95・2a、水稲178・5a、ユリ栽培などのハウス8棟、西和賀オリジナルリンドウを中心とし、リンドウの育種はNPO法人西和賀農業振興センターから委託を受け、育種ほ場20aと育種・育苗ハウス2棟で、管理と育種指導を行っています。ユリの栽培は高品質を維持し、地域の模範として高い評価を受けています。

功績および地域への影響

花き生産や西和賀オリジナルリンドウの育種開発に尽力し、仲間作りや地域を越えた活動を展開し、岩手県の花き振興に貢献。育種は専門的な知識を發揮し、オリジナルリンドウの試験ほ場や素材の提供、交配技術や的確な助言と指導をし、西和賀オリジナルリンドウ「錦秋の風」が「2016いわてフラワーコンテスト」で最優秀賞「農林水産大臣賞」を受賞しました。



平成7年～西和賀花弁振興協議会代表／平成10年～27年西和賀花弁生産組合長／平成18年～23年全農いわて大型花弁経営者協議会会長／平成19年～NPO法人西和賀農業振興センター副理事長

平成28年度 事業報告

第3次中期経営計画初年度

平成28年度は、JAグループの事業・組織の根幹に関わる改正農協法が4月から施行されたことや、政府の規制改革会議の過剰介入による「農協改革に関する意見」の提示、米国新大統領によるTPPからの永久離脱表明に伴う日米FTA交渉への動きが見られるなど、農業・JAを取り巻く環境は大きな転換期を迎え、極めて予断を許さない状況下で推移しました。また、異常気象による自然災害が発生する中、昨年8月の台風10号により、管内では遠野・沿岸地域の農作物に甚大な被害をもたらした農家経営に大きな打撃を受けました。

こうした状況の中、JAの自己改革取組事項を踏まえた第3次中期経営計画の初年度として、掲げた基本目標「農業者の所得増大・農業生産の拡大」「地域の活性化・協同活動の活性化」「結びつき強化・経営基盤強化」の達成に向け、役員が一丸となってさまざまな施策に取り組みしました。

農業

農業者の所得増大、 農業生産の拡大

消費者の信頼に応え、安全・安心な農畜産物を持続的・安定的に供給する地域農業を支え、組合員の農業所得確保・増大を支える姿を目指し、以下の7項目を重点に活動を展開しました。

販売事業では、米卸や実需者から指定される産地の確立を目指し、継続して米集荷200万袋運動に取り組んだほか、第二次アスパラガス倍増運動をはじめ、一億円販売園芸団地の推進や地域特性を生かした重点品目野菜などを核とした園芸生産の拡大に取り組みしました。

販売品販売高合計は238億48百万円で、前年・計画以上の実績となりました。

1. 集落営農ビジョンの見直しによる地域コミュニティの活性化
2. 農業者の所得増大と農業生産の拡大
3. 新たな販売体制の構築
4. 地産地消
5. 利用施設の効率化と採算性の改善
6. 営農指導体制の構築
7. 生産資材コストの低減と農業生産の省力化・効率化

くらし

地域の活性化、 協同活動の活性化

総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献することを目指し、以下の2項目を重点に活動を展開しました。

農家組合・青年部・女性部との連携により、1支店1協同活動やふれあいプランなどくらしの活動を通じて、組合員・地域住民との結びつき強化を図り、地域コミュニティの活性化に取り組みしました。

1. くらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化
2. 総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮

経営組織

結びつき強化、 経営基盤強化

組合員・地域住民との結びつきを深め、食と農を基軸として地域に根ざした信頼される協同組合として存立している姿を目指し、以下の2項目を重点に活動を展開しました。

施設整備においては、高齢者福祉サービスの充実を図るため、デイサービスセンター「グリーンホーム落合」の新築建替や、認知症対応型共同生活介護事業所「グループホームとどろき」の新築に取り組みしました。

1. 結びつき強化による協同活動の活性化
2. 財務基盤強化と経営健全化

取り組みの成果

～自己資本比率 14.09%～

経常利益は9億83百万円、計画対比113.9%、当期剰余金は7億59百万円、計画対比138.8%の実績となりました。自己資本比率は14.09%となりました。

農業・農政の先行きが不透明な状況の中、組合員各位のご理解により、こうした成果を上げることができました。

